

刊行趣旨

『一般言語学論叢』は、筑波大学一般言語学研究室の OB が中心となって、1998 年に創刊した学術雑誌です。創刊の趣旨の一つとしては、同研究室院生および OB の論文発表の場を増やし、院生と OB 相互の縦のつながりを強化したいということもありました。しかし、本誌は、筑波大学の関係者に限らず、一般からの原稿も募集しております。

本誌作成におきましては、関係者が全国に散らばっているために、電子メールやメーリングリストを使って密に連絡を取り合い、論文投稿、査読、編集、組版、出版といった一連の作業に伴う原稿のやり取りも、可能な限り PDF ファイルに変換して転送するなど、IT 時代の技術をフルに活用しております。また、多言語環境を実現するために、刊行当初は文書組版システム TeX による統一を図りました。現在では、LaTeX と Word の体裁を調整し、いずれの形式でも提出できるようになりました。このことは、本誌のコストダウンにもつながっております。

本誌では、特定の理論・枠組みに偏らず、幅広く言語に関わる種々の研究論文を掲載し、言語学全体の発展に寄与したいと考えております。巻末の投稿規定にしたがって、積極的に投稿して下さるよう、よろしくお願い致します。言語学に興味・関心のある研究者に多く参加いただくことにより、さらに実りある議論ができ、言語研究が一層進むことを切に願う次第です。